

学校関係者評価報告書

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校
 学校番号 35

評価実施日		令和4年2月24日(木)		
委員	氏名	所属等	備考	
		木下 恵介	学校評議員	
		田中 元久	学校評議員	
		菊池 誠	学校評議員	
		前田 英隆	学校評議員	
		小山 優子	学校評議員	
		近藤 幸夫	元PTA会長	
		竹田 利夫	PTA会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に関しては、様々な内容を盛り込んだ「八工だより」を毎月発行及び家庭や地域に発信され、情報の公開・伝達ができています。 ・配布物の家庭持ち帰り率がすこし下がっているが、後は適切であり、よく努力されている。 ・図書館環境の整備については、「図書館通信」によりお薦めの本や内容を紹介しての新着図書のご案内等、興味を持つ工夫や貸出数を増やすための取組ができています。 ・教職員の業務改善に関しては、日常業務と部活動関連業務で本当に大変だが、働き方改革を推進する流れの中で、今まで通り呼びかけも行いながら教職員の意識を徐々に改善できれば良いのではないかと。 <p>(2) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エスタブリッシュメントテストの実施や年間相互授業研修の参加等、基礎学力の向上に向けた取り組みがなされている。 ・まだまだコロナが収束に至っていない状況なので、ICTやオンラインの活用も引き続き継続的な実践が必要である。 <p>(3) 工業教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得・検定試験合格・ジュニアマイスターの認定は、目標を下回っているとのことだが、コロナの影響や入学者数の減少という環境変化もあるので、設定している目標数の再検討をした方が良い。 ・ものづくりコンテストでの入賞やものづくり教室の実施など、工業高校らしい取組について、ものづくりは経済界にとっても大変重要なことなので、味を持つ生徒をいかに増やしていくかが大事である。 ・評価はCになっていますが、生徒数が減る中のこの環境で結果を残し、よく努力している。 <p>(4) 特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活動推進や外部との交流事業に関して、コロナ禍の状況なので目標に拘ることなく生徒の安全を第一に考えて実施してほしい。 ・部活動に関しては、ほぼ全員が加入しており、レスリングやWROの素晴らしい成績をはじめそれぞれが良い成果を残しており、よく頑張っている。 	<p>1 今年度の最終評価を受けて</p> <p>(1) 学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、保護者・生徒だけでなく地域の方にも読んでいただける「八工だより」を発行し、情報の公開に努めていきたい。 ・今後はSNSを活用して、直接保護者に発信できる体制を整えたい。 ・図書の貸出冊数につながるように、本の紹介に力を入れていきたい。また、ICT関連の授業で使えるように情報環境を整えたい。 ・有休の取得については校務分掌の兼ね合いから取りづらい教職員がいるので、休暇の取りやすい配置の検討や、逐次取得の呼びかけを継続していきたい。 <p>(2) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても生徒の学習活動をとめないよう、授業内容の工夫や精選に努めたい。 ・生徒一人一台端末を有効活用し、ICT教育やオンライン教育についてもより一層の充実を図りたい。 <p>(3) 工業教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者数が減少しているため、人数による目標設定を見直したい。 ・ものづくりに早い時期から興味を持てるよう、1年次の専門科目等で取り組んでいく必要がある。工業技術基礎などでもものづくりを体験させることで興味を持たせ、更に高度なものづくりに興味を持つ生徒を育成していきたい。 ・工業教育として結果を残していかなければ評価にはつながらないので、どんな状況でも必ず結果が残せるように努力していきたい。 <p>(4) 特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の場があると積極的に参加する本校生徒であるが、コロナ禍も2年にわたり様々な場面でノウハウが失われつつあることに危惧を抱く。 ・運動部は例年の活動に戻りつつあるが、文化部では全国大会の中止など目標設定やモチベーションの維持に苦労している。そんな中でも日々真摯に実力の向上に励んでいる生徒たちをしっかりと見守っていきたい。

(5) 生徒指導

- ・基本的な生活習慣に関しては、本来は家庭で身に付けるものだと考えるが、学校で指導いただくことで更に強い自覚に繋がっていくので、家庭との連携が大事だ。
- ・挨拶は評価も高いので、生徒たちも自信を持って、挨拶がもたらす地域への貢献を今後もお願いしたい。

(6) 人権教育

- ・人権啓発に関して、「人権だより」を工夫して作成されており、心に響く良い内容になっている。発行回数が少ないとのことだが、回数ではなく内容だと思う。
- ・いじめに関しては、正確な状況の把握どころか、見つけること自体が大変難しい問題なので、生徒達の観察やコミュニケーション、相談しやすい体制づくり等、地道な取組を続けていくことが大事である。
- ・いじめが0になるのは本当に難しいと思うが、人権教育など、努力されている。

(7) 進路指導

- ・就職指導に関しては、職場見学や合同企業説明会等で企業の理解度を深める努力をされていることにより、高い一次試験合格率に繋がっている。
- ・進学指導についても、オープンキャンパスへの参加や志望校研究等の進路相談での的確な指導により、第1希望の合格率100%という結果に繋がっている。

(8) 学校保健

- ・学校保健に関しては、毎月「保健だより」を発行し、タイムリーな情報を分かりやすく周知できている。また、今後の改善策にあるように、コロナ禍ならではのメンタル面のケアも大変重要である。

(9) 学校安全

- ・学校安全でも、防災訓練等をしっかりと実施しており、訓練を繰り返し行うことで行動が身に付き、意識も向上しているようである。命を守るための大変重要で良い取組である。

(10) 学校行政

- ・校内の美化に取り組み、教職員が丁寧な電話応対等を心掛けることで、それが保護者や地域の方々に伝わり、学校への深い理解と信頼につながっている。

2 重点努力目標について

- ・目標の達成に向けて、適切に行われている。
- ・先生も生徒もよく努力されている。

3 説明・公表について

- ・文字だけではなく、グラフや表を使った分かりやすい形で公表されるのが良いのではないか。
- ・今の方法で適切だと思われる。

4 学校運営全般について

- ・なかなかコロナが収束しないことで、何においてもやりづらく悩まされることばかりだが、今までのやり方を変えてみるきっかけや、新しい方法を発想できるチャンスだと捉え、あまり無理をすることなく、生徒と教職員方の安全を一番考えて運営していただきたい。
- ・困難な状況の中でよく努力されている。

(5) 生徒指導

- ・社会に出た際に困らないためにも、基本的な生活習慣が確立できるように家庭と連携を取りながら今後も指導していきたい。
- ・挨拶は気持ちが表現されやすいため、しっかりできるよう登校指導等を通して継続して指導していきたい。

(6) 人権教育

- ・内容について評価していただいたが、新しい情報を取り入れながら、内容もより考え工夫し充実させ、発行回数も予定通り達成できるように次年度は改善したい。
- ・いじめに関しては、相談体制が充実しているとは、数値からも言えないので、もっと生徒に身近で寄り添った立場からコミュニケーションが取れるよう教職員に啓発していきたい。また、生徒が教育相談室に足を運びやすいよう、人権だより等で発信していきたい。

(7) 進路指導

- ・校外外を問わず進路ガイダンスや企業説明会等の機会を積極的に活用することで生徒の理解を深め、早期離職のない就職指導を図りたい。
- ・関係者間の情報交換を密にして、早期からの指導を行うことで、生徒一人一人の希望や目標に沿った進路決定を図りたい。

(8) 学校保健

- ・日頃から生徒の様子を観察し、学校全体の課題を見付けながら、課題解決に向けてタイムリーな情報発信を心掛けていきたい。また、相談しやすい環境をつくり、メンタル面のケアにも力を入れていきたい。

(9) 学校安全

- ・地震や火災、不審人物への対応など、様々な災害を想定し、市や地元公民館等と連絡を取り合っ、安全教育に取り組みたい。

(10) 学校行政

- ・引き続きバラ園を含めた適正な施設設備の管理や丁寧な来客応対に努め、安全安心な学校づくりを推進していきたい。

2 重点努力目標について

- ・「ものづくりから人づくり」を基本に、これかも努力目標実現に努めていきたい。

3 説明・公表について

- ・アンケート結果を総括してまとめたものを掲載しているが、今後は更に分かりやすい公表の仕方を心掛けたい。

4 学校運営全般について

- ・全般に昨年度と変わらず、良い評価をいただいている。コロナ禍で大変な部分もあるが、生徒、保護者・地域にとって、魅力的な学校であるよう、更なる高みを目指してこれからも努めていきたい。